

月間入院, リウマチ熱を疑われた。右 CAG で主幹動脈は明瞭に造影されたが中大脳動脈 M1 部は不明瞭であった。

**現病歴:** 1986年2月起床時より2日間の左手しびれ感と左半身軽度脱力を認めた。3月10日初診, 神経学的に異常なし。CT で左中頭蓋窩にくも膜嚢胞がみられ, 右 CAG では M1 部は見えず, 基底核近傍に広がるモヤモヤ様血管網を認めた。M2 部より末梢は正常であった。

**結語:** 本例は23年前にモヤモヤ様血管網が存在し, 基底核部の虚血症状として不随意運動が出現したと考えられた。いわゆるモヤモヤ病とは異なり血管写しは経時的進行性変化に乏しいと考えられた。

#### A-68) 一過性脳虚血発作(TIA)の脳循環動態についての検討

桜木 貢・山内 亨  
黒田 敏・本宮 峯生 (北海道脳神経外科)  
中川 端午・三森 研自 (記念病院)  
都留美都雄

一過性脳虚血発作(TIA)の病態生理に関しては未だ解明されていない。今回私共は, SPECT にて TIA の脳循環動態を検討したので報告する。

対象は TIA 23症例(男性17例, 女性6例)平均年齢63.1才, 方法は島津製 Headtome にて  $^{133}\text{Xe}$  吸入法にて測定した。安静時は23症例, Acetazolamide 負荷は10症例に行なった。

安静時 mean CBF では, 正常9例, 軽度低下9例, 低下5例でした。安静時と Acetazolamide 負荷を行なった10症例では, 次の4つのパターンが見られた。CBF 正常で Acetazolamide 反応良好1例, CBF 低下で Acetazolamide 反応良好4例, CBF 正常で Acetazolamide 反応低下2例, CBF 低下で Acetazolamide 反応低下3例。CBF 低下で Acetazolamide 反応低下3例。これらについて,  $^{123}\text{I}$ -IMP 施行例とも比較検討し, TIA の脳循環動態について報告する。

#### A-69) 脳梗塞に persistent primitive proatlantal intersegmental artery を合併した1例

石黒 雅敬・堀田晴比古 (市立札幌病院)  
北見 公一・土田 博美 (脳神経外科)  
相馬 勤

Persistent primitive proatlantal intersegmental artery (以下 PPPIA と略す) は内頸動脈-椎骨動脈吻合遺残血管の1つであるが, その報告は極めて稀で現在まで20数例を見るに過ぎない。これらの多くは脳血管撮影の際,

偶然発見されているが, 脳動脈瘤, 脳動脈奇形などの血管奇形に合併する例も報告されている。

我々は65才男性で右片麻痺と軽度の言語障害で発症した脳梗塞症例で, PPPIA を合併した症例を経験した。PPPIA と脳虚血との関連については, 文献上古くからその可能性について論じられていたが未だその報告例は少ない。本症例の血管撮影所見, SPECT の詳細を呈示し, PPPIA と脳虚血との関連について若干の考察を加える。

#### A-70) 脳梗塞超急性期 CT 所見の検討

板本 孝治・上野 一義 (国立療養所)  
加藤 正仁・佐久間司郎 (北海道第一病  
高橋 明弘・遠山 義浩 (院脳神経外科))

脳梗塞に於ける CT 所見はよく知られているところだが, 発症6時間以内の超急性期に於ける CT 所見について検討した報告は少なく, 一般的には, 脳梗塞に於ける異常 CT 所見の検出は速いもので8時間目位からで, 24時間以内での検出率は50~70%とされている。今回我々は, 過去4年間に当科に入院した脳梗塞症例のうち, 発症24時間以内に搬入され CT を施行した112例について臨床的検討を加え, 若干の知見を得た。これに文献的考察を加え報告する。

使用 CT は TOHSHIBA 製 TCT70-A で, 単一機種とした。対象は, 昭和61年4月から平成元年4月までに入院した脳梗塞症例のうち, 上記112例で, 天幕上梗塞例に限定した。さらにこれを, 発症から6時間以上で12時間以内に施行されたもの, 12時間以上で24時間以内に施行されたものに分け, それぞれ異常 CT 所見の有無, 臨床的意義を検討した。

#### A-71) 脳虚血急性期の SEP (DEE)

一急性期血行再建への挑戦一

小林 延光・上山 博康 (北海道大学)  
阿部 弘 (脳神経外科)  
小岩 光行・柏葉 武 (柏葉脳神経外科病院)

脳虚血急性期の脳機能の回復性を検討するため急性期に SEP (DEE) を行い予後と対比した。方法: 対象は入院時発症後早期で脳虚血症状を有し, CT 上低吸収域のみられなかった56例である。全例に急性期に SEP を行い, 異常例に dopamine による昇圧下に SEP (DEE) を施行した。DEE (+) で脳主幹動脈閉塞を有する例には急性期に bypass 手術, 他のものには dopamine